NIE実践報告

1．タイトル：記者派遣事業を通して

2．学校名

兵庫県加西市立泉中学校

3．実践者名（代表者名）

代表　山田　明

4．学年

全学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合学習

6．単元（本時の学習課題）名

「命の重さ、助け合うことの素晴らしさ」　　～ ２大震災を取材して ～

7．目標(狙い)

「助け合い」「支え合う」ことの素晴らしさに触れ、今の自分の生き方を見つめる機会にする。

8．評価の視点

ワークシートを通して多くの人の意見に触れるとともに、自分の考えをまとめ発言することができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

ワークシートの自由実施（９月～　毎週自由提出）、NIEの日の設定（毎月21日：ワークシートへの保護者の参加）、チャレンジワーク週間の実施（５日間：意見交換会の実施）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

チャレンジワーク週間（12/13～17日　ワークシートの実施：25分間、班内意見交換会：15分間）
・№１：「しあわせ運べるように」作者の思い願い・№２：阪神淡路大震災17年目！（ともに神戸新聞）
・№３：それは形見･･･「ぼろくてもいいねん」（毎日新聞）・№４：震災が生んだ“ 大家族 ”（東奥日報）
・№５：被災中学生が奉仕（神戸新聞）・№６：運命･･･耐えて助け合う（階上中学校卒業式答辞より）
・№７：人への優しさ、おもいやり　地球のあちこちで小さな奇跡を起こし続けている！（毎日新聞）
・№８：それは「釜石の奇跡」と言われる（神戸新聞）
留意点
・自分と友達の意見を対比しながら意見交換を行う。
・保護者にも意見を求めてみる。
講演会（12/20）
「命の重さ、助け合うことの素晴らしさ」　～ ２大震災を取材して ～　　神戸新聞社　田中伸明編集委員
・講演（60分）、意見交換（50分）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

人を励ます言葉が、逆に負担を強いる言葉にもなるということが、鮮烈に印象に残ったようである。また、「人を思いやる心の素晴らしさを、家庭で話し合うきっかけになった」という保護者からの感想もあった。

12．成果と課題

本年度は、NIE実践の1年目ということで、新聞記事をもとにした「ワークシート」の実践が中心であった。自分の考えをみんなの前で話し、また、多くの意見に触れる取り組みは、“ 自己表現・他者理解 ”の面においてそれなりの効果があった。今後は、意見交換や意見発表の場で「伝え合う力」をさらに磨き、その力を「学びあい」「教え合い」に発展させ、“学び ”が自分だけにとどまらず、仲間に広がっていくような状態を目指したい。